

愛大の源流「同文書院」卒業生

日中友好の夢・挫折、切々

戦前戦後の状況講演

戦前、中国・上海にあった日本人向け教育機関で、愛知大のルーツでもある「東亜同文書院」の卒業生、倉田俊介さん(87)が11日、同文書院が設立した日清貿易研究所の流をめぐり、話も知られる。

東亜同文書院は日中友好などを建学の精神に、1901年に設立された。異出身の軍人、若尾精が設立した日清貿易研究所の流れをくむことで知られる。

倉田さんは、刈谷中(現・刈谷商)卒。学生向け雑誌で「慶都・上海にあり、在学中に中国を視察旅行させてくれる」と紹介されているのにもかかわらず、41年に入学した。42期生だった。



倉田さんは、刈谷中(現・

刈谷商)卒。学生向け雑誌で「慶都・上海にあり、在学中に中国を視察旅行させてくれる」と紹介されているのにもかかわらず、41年に入学した。42期生だった。

同期生は約160人。各都道府県や朝鮮、台湾などから派遣される、優秀で個性的な人材が多かったという。全寮制だけに、おのずと仲間意識が強くなった。学内にはパンカラでリベラルな空気が強く、「列強と違い、日本は中国で武力を振り回さず、経済関係を強めて共栄を図るべきだ」との教えが聞かれたという。

だが、学生たちが大陸で活躍する夢は、戦争で頓挫。戦死した同窓生も多く、倉田さんも43年に学徒出陣し、その在住する横浜から講演に駆けつけた倉田さんは「日本と中国の友好をめざし、志を果たせなかつた若者も多かった」と振り返った。豊橋市

後、中国戦線にかり出されて重傷を負った。戦後、「海外で補償する仕事をしたい」と商社に入社。すると仕事を通じて、同窓生たちと再び縁ができた。ある同期生は、終戦を迎えたインドネシアに残って独立戦争に参加し、そのまま定住。戦時中に破壊された地元のモスクの再建に貢献した。ちよ

うど、同国で仕事していた倉田さんをはじめ、同期生有志がその祝いの会を開き、ねぎらったこともある。倉田さんは、同窓会の幹事を長く務めるなど、同窓生のきずなの維持に役を買ってきた。「日中の架け橋になろうとした若者たちの思いを受け継がれてほしい」と話した。(山本晃一)

スポーツ・教育・文化

愛知大学経済学部の内、愛知大学記念館正面玄関内の左右両側に、漢文の文書を記したパネルがそれぞれ掲げられてい

「東亜同文書院と愛知大学 設立趣意書」を読む 佃 隆一郎

除隊し、軍服のまま大学に帰った。しかし大学は開校となり、最後の学長であった本間喜氏



講義する今泉潤太郎名誉教授と司会の大島隆雄名誉教授

知大学へ受け継がれた伝統としての愛知大学の学生生活で、今更けを思っている

スポーツ・教育・文化

6月14日午後、東亜同文書院に入した1級生が各部隊製造した三八式歩

東亜同文書院本業生 倉田俊介氏の講演を聴く 武井 義和

奥や学生の様子を知り、聴めかけ、倉田氏の講演に熱心に耳を傾けていた



東亜同文書院本業生 倉田俊介氏

「愛知大学東亜同文書院大学記念センター・ホストダウン」

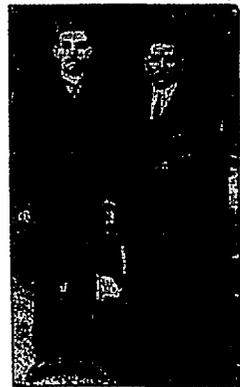
DVDなどで愛大の歩み紹介

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、広く市民に大学の歴史について知ってもらおうと、新たにパンフレットやDVDを作製した。

愛知大学東亜同文書院大学記念センター 客員研究員・運営委員・越知厚氏、愛知大学中日大辞典編集主任・今泉剛太郎氏、同書院研究支援課主任・山本晃司氏、喫茶リラ店主・布藤雄子さん、母橋敬雄連盟会長・鈴木光俊氏、同司会部長・中江順子さん、母橋敬雄編集長・柴田新一氏、同筆頭編集長・村松真一氏、同税務広報広報官・齋藤寿久氏

本社来訪

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、26、27日、青森県弘前市の弘前駅前市民ホールで「孫文・山田兄弟と東亜同文書院大学の資料展不刊」を開く。書院大の学生であり、教員を半世紀に渡って務めた、弘前出身の山田良政・純三郎兄弟にちなんで開く。



東亜同文書院大学の資料展

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、26、27日、青森県弘前市の弘前駅前市民ホールで「孫文・山田兄弟と東亜同文書院大学の資料展不刊」を開く。

展示される孫文と純三郎さんの写真

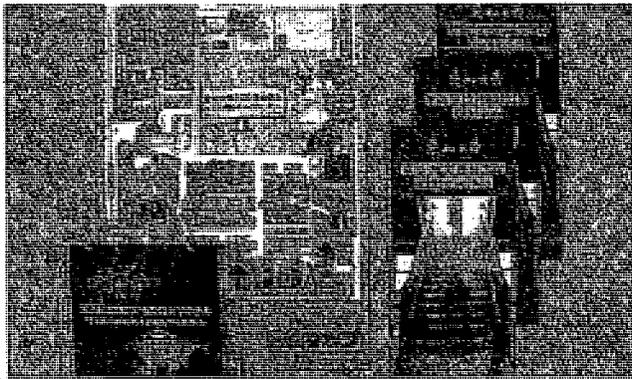
また純三郎さんは戦後、愛知大学に多くの関連資料を寄贈している。

山田兄弟は、中華民国を建国した孫文を支えており、純三郎さんは秘書役もこなした。今回は山田兄弟と孫文に関する写真を中心に約60点を展示する。

山田兄弟の写真をはじめ、純三郎さんと孫文が並んだ写真、孫文の書いた書などが並ぶ。また26日午後1時からパネルディスカッションも行う。

(竹下真信)

愛大の歩み分かり易く パンフやDVD作製



3カ国語のパンフレット、DVD、「探検マップ」

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、広く市民に大学の歴史について知ってもらおうと、新たにパンフレットやDVDを作製した。パンフレットは日

本語のほか、英語版中国語版を用意。DVDでは、東亜同文書院時代からの大学の歩みがまとめられている。近年、大学構内を見学に来る市民が増えている。

解説を記している。記念センター展示室も設備を充実。音声ガイド機で展示品の説明を聞くことができる。

日本語、英語、中国語に対応。貸し出しは無料。休館日は日曜、月曜、祝日、創立記念日と大学の夏期、冬期休暇期間。開館時間は午前10時から午後4時。入場無料。また26日には青森県弘前市の弘前駅前市民ホールで愛大が所蔵する孫文と東亜同文書院大学に関する資料の展示会が開かれる。

孫文の武装蜂起に参加して処刑された山田良政と、孫文の秘書を務めた純三郎の日本人兄弟にまつわる貴重な資料も公開する。文学部の藤田佳久教授は、同文書院と愛大をテーマに講演する。

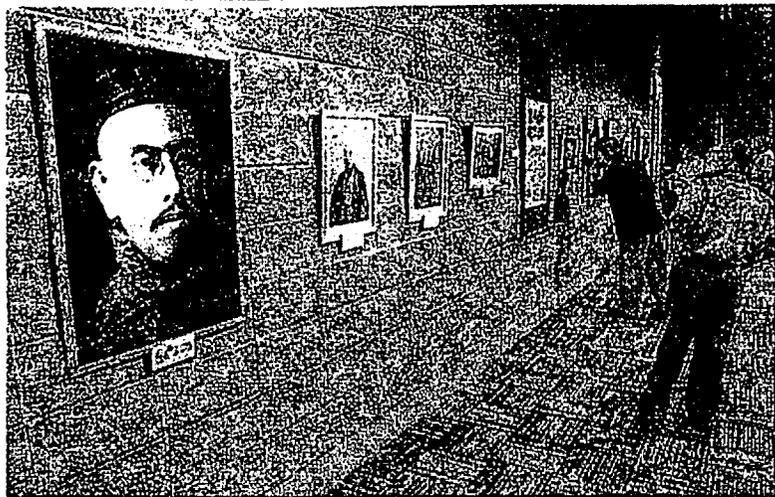
東奥日報 08年7月27日(日)

弘前出身の山田兄弟

孫文支えた生涯紹介 愛知大教授ら4人講演

弘前

「津軽が生んだ山田良政・純三兄弟をめぐって―津軽、東亜同文書院、孫文―」と題した講演会と資料展示



展示されている山田良政・純三兄弟の資料に見入る来場者

が二十六日、弘前市の駅前市民ホールで開かれた。大勢の市民が来場し、同市出身の山田兄弟と、中国革命の父・孫文との関係に、熱心に耳を傾けた。資料展示は二十七日も行

この企画は愛知大学東亜同文書院大学記念センターなどが主催。講演会では同大学の藤田佳久教授、馬場毅教授ら四人が講演した。はじめに藤田教授

が、愛知大の前身で日本人が上海に開学した東亜同文書院の歴史、書院生の意識や、代々の書院生たちが行った調査旅行などを紹介。馬場教授は「孫文を支援した山田兄弟」と題し、同兄弟と孫文との出会いや、革命を支援する経緯などを説明。「兄の良政は、短い間だが孫文の指導する中国革命に参加し、一命をささげた。弟の純三郎は、一部の軍人や政治家のように、革命参加の見返りに会社や国家の利権拡大を求めなかった。それが最後まで孫文の信頼が厚かった理由」と解説した。二十七日は午前十一時、午後二時、同四時に資料説明会を行う。

(白取心平)

弘前出身、孫文と中国近代化へ尽力



山田良政の写真なども展示された会場

講演会では本紙に歴史小説「皇帝の森―ラストエンペラー溥儀と工藤忠」を連載中の作家いずみ涼(本名・泉鏡)さんが「私が描く山田兄弟と津軽」と題して語った。溥儀から明治にかけての津軽と中央の関係、翔南やおいの菊池九郎、後藤新平らとの絡みを取り上げ、革命に生きた二人と人とのつながりの不思議さをひもといた。

また藤田佳久同センター長が「東亜文藝院とその歩み」、馬場毅愛知大学現代中国学部長が「孫文を支援

革命に生きた山田兄弟語る

近代中国を生きた孫文とその革命を手助けした弘前市出身の山田良政、純三郎兄弟をめぐる講演会が二十六日、弘前駅前市民ホールで開かれ、多くの市民らが明治期に成し遂げられた偉業と意義に触れた。

地元で初の講演会

愛知大学東亜同文書院記 中国惠州に赴いたが清軍の急襲で主権する講演 攻撃で捕虜となり、処刑された。山田兄弟が同院の教員。三十三歳で中国革命と卒業生である関係からに殉じた最初の日本人とな多くの資料が残されておった。地元弘前で初めて開か

九歳違いの弟純三郎は良政の死後に孫文の秘書となり、共に行動した。日本と山田兄弟は同市在府町に生まれ、向かいには後の言論人陸羯南の生家があった。兄弟は孫文に共鳴し、革命に尽力して革命に参加。密命を受け孫文の臨終にも立ち合っ

関連資料や写真など展示も

した山田兄弟」、武井義和同センターホストドクターが「愛知大学が所有する山田兄弟と孫文関係史料について」それぞれ講演。同大が所蔵する資料をもとに山田兄弟が果たした中国革命への貢献について、地元弘前で講演する意義を語った。会場には良政や純三郎、孫文らの写真や資料が展示され、訪れた市民らが熱心に見詰めていた。二十七日は約五十点の資料についての説明会が同会場で行われる。同市の山田家菩提寺・昌寺には孫文と蒋介石の奉還による兄弟の碑が建立されている。

読売新聞 08年7月27日(日)

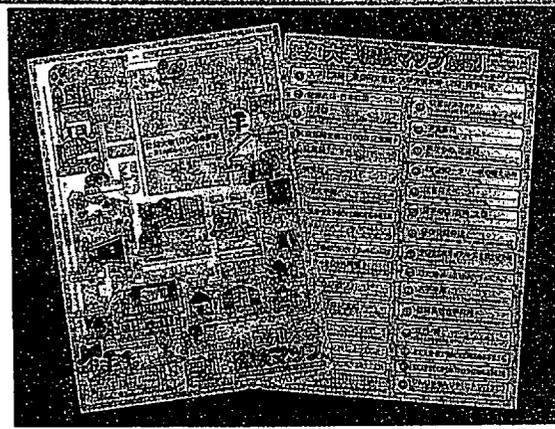
孫文を支えた山田兄弟資料展

中国革命の指導者・孫文を支えた弘前市出身の山田良政、純三郎兄弟の関連資料展が26日、弘前市の弘前駅前市民ホールで始まった。入場無料。27日まで。会場には、孫文と2人で並ぶ純三郎の写真、良政の墓碑として孫文がしたためた書など約60点を展示している。山田良政は孫文の同志として、1900年の「惠州起義」に参加し、戦死。兄の志を継いだ純三郎は、孫文の実質的な秘書役として、「辛亥革命」にかかわったとされている。

USO 日本四季風景画「サギの住む島」 食品偽装 (三沢・風小徳)

08年7月29日(火) 東愛知 新聞

「愛大100年の歩み」
探検マップが完成



愛知大学豊橋校舎の探検マップ「愛知大学100年の歩み」31カ所。大学記念館、大

大学記念館など31カ所掲載

豊橋校舎の歴史を紹介

本館などをはじめ、純情きりの通りやカルカ王の池など計31カ所を紹介している。

同大東亜同文書院大学記念センターが、豊橋校舎の歴史を学生や来訪者知ってもらおうと作成した。A4カラー版で表面は地図、裏面は各施設の簡単な解説が書かれている。大学記念館は、1908(明治41)年に建設され、旧日本陸軍第15師団が司令部庁に使用していたことをはじめ、旧短大本館は陸軍の親睦団体の施設だっ

たこと、第二体育館は旧陸軍大講堂だったことなどを紹介している。このほか、学生会館は現在3代目、図書館は蔵書150万冊、大学本館は1996年

に新築された。純情きり通りはロケに使われたなどと伝える。地図は漫画研究同好会が作成した。

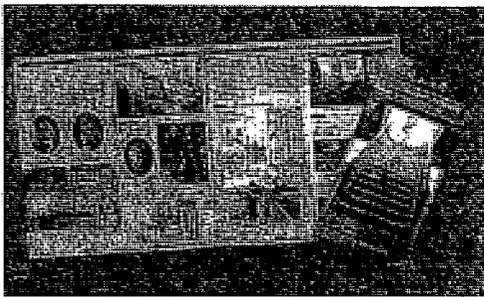
同センターでは「豊橋校舎のいたるところに歴史を感じさせる場所がある。多くの人にマップを見ながら校内を巡ってほしい」と話していた。同記念センターなどで配布している。

(竹下貴信)

08年7月29日(火) 東愛知新聞

新たに英語と中国語版

愛大東亜同文書院 展示室パンフレット
記念センター



愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、展示室のパンフレット

に英語と中国語版の写真を加えた。これまでは日本語しかなく、留学生をはじめ、外国人来訪者に対応したいと外国語のパンフレットを作成した。東亜同文書院大学の様子、孫文と大学の関係、愛知大学創成期の歴史などを、写真をふんだんに使って解説している。同センターで配布する。

(竹下貴信)

東亜同文書院と愛大の歴史広く公開



弘前資料展示会・講演会のピラ



激励の電報が寄せられた



愛知大学創成期の群像 会場に詰めかける参加者ら



会場での資料展示(孫文・山田兄弟関係)



資料展示について説明する武井義和ポスト・ドクター

平成18年度私立大学研究高度化推進事業(オープン・リサーチ・センター)盛岡専攻・藤田佳久(せんとう)氏に選定されて以来、東亜同文書院大学(とうあどうぶんしょいん)が所蔵する孫文(そんぶん)や山田兄弟(やまだけいどう)の資料(しりょう)を広く公開(こうかい)してきた。

まず、平成18年11月には「山田兄弟」の歴史を、図書館(としよかん)特別企画(とくべつこくわ)として、愛知大学(あいちだいがく)立60周年(たて60しゅうねん)を記念(きねん)し、「東亜同文書院(とうあどうぶんしょいん)から愛知大学(あいちだいがく)へ」というテーマ(てま)で資料(しりょう)展示(ていし)・講演会(こうげんかい)もあわせて行った。平成19年11月には、東京(とうきょう)で開催(かいさい)した山田兄弟(やまだけいどう)と孫文(そんぶん)関係(かんけい)史資料(ししりょう)について、愛知大学(あいちだいがく)東京(とうきょう)事務所(じむしょ)移転(いせん)開校(かいがく)に伴(たずな)って、資料(しりょう)展示(ていし)会(かい)と講演会(こうげんかい)も行った。

- ### 7月26日スケジュール
- ◆挨拶 佐藤元彦(さとうげんひこ)愛知大学(あいちだいがく)学長(がくちやう)
 - ◆講演 「東亜同文書院(とうあどうぶんしょいん)とその歩み」 藤田佳久(ふじだけいこ)教授(けうじゆ)
 - 「孫文(そんぶん)を支えた山田兄弟(やまだけいどう)」 馬場(うまば)駿(しゆん)教授(けうじゆ)
 - 「私が描く(えが)く山田兄弟(やまだけいどう)と津軽(つがる)」 作家(さか)・いづみ涼(すず)氏(うぢ)
 - 「愛知大学(あいちだいがく)が所蔵(しよざう)する山田兄弟(やまだけいどう)と孫文(そんぶん)関係(かんけい)史資料(ししりょう)について」 武井(たけい)義和(ぎわ)ポストドクター
 - ◆挨拶 山田兄弟(やまだけいどう)の眠る(ねむ)る真因寺(まゐんじ)和尚(じゆう)



佐藤元彦学長のあいさつ

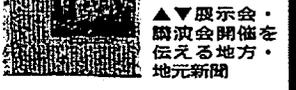
今回は、7月26日(とう)と27日(とう)、青森県(あおもりけん)弘前市(ひろまき)の駅前(えきまへ)市民ホール(しみんほーる)において、近代中国(きんだいちゆうごく)の革命家(かくめいけ)・孫文(そんぶん)を支えた弘前出身(ひろまきしゆしん)の山田良政(やまだらせい)・純三郎(じゆんざらう)兄弟(けいどう)の資料(しりょう)をはじめとして、東亜同文書院(とうあどうぶんしょいん)や愛知大学(あいちだいがく)の資料(しりょう)、パネル(ぱねる)24枚(まい)とイーゼル(いーせる)9枚(まい)を準備(じゆんび)より搬出(はんしゆつ)し、展示(ていし)した。

こうした内容は、愛知大学(あいちだいがく)の地元(じよたん)紙(し)はもとより、青森県(あおもりけん)弘前市(ひろまき)のマスコミ(ますこみ)にも取り上げられ話題(わだかま)を呼ん(よび)だ、とくに孫文(そんぶん)を助(たす)けた山田兄弟(やまだけいどう)の歴史(れきし)は広く、これを機会(きかい)に地元(じよたん)の誇(こほ)りにしようと盛り上げた。

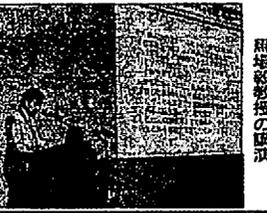
(愛知大学(あいちだいがく)同文書院(どうぶんしょいん)記念(きねん)センター 武井(たけい)義和(ぎわ)研究(けんきゆ)員(いん))



山田兄弟の革命活動



▲▼展示会・講演会開催を伝える地方・地元新聞



馬場駿教授の講演



作家・いづみ涼氏の講演



真因寺(まゐんじ)山田良政(やまだらせい)墓(はか)所(しよ)在(ざい)和同梅(わどうばい)の石碑(いし)

青森・弘前出身で孫文支えた偉人 地元で山田兄弟の功績資料展示

AICHI UNIVERSITY
愛知大学東亜同文書院大学記念センター
 Open Research Center for Toa Dobunshoin University of AICHI UNIVERSITY 愛知大学東亜同文書院大学記念中心
 〒441-8522 愛知県豊橋市町畑1-1 Tel.0532-47-4139 Fax.0532-47-4196 URL http://www.aichi-u.ac.jp/
 1-1 Machihara, Toyohashi, Aichi 441-8522, Japan



東日新聞 2005年(平成17年) 8月13日(水) 14



愛大記念館で資料を見学した一行
(中央ですわっているのが立花氏)
=旧学長室で

立花隆氏ら愛大記念館見学 戦争遺跡 フィールドワークで

「第12回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知大会」(戦争遺跡保存全国ネットワーク主催)3日目の11日、4コースに分かれてフィールドワークが行われ、作家・宗田理氏が「後世に伝えなければならぬ」と豊川海軍工廠「愛大」をテーマに記念講演などが行われ、2日目の10日は「保存運動の現状と

課題」などの分科会や全体集会が開かれ、最終日の11日は、豊川海軍工廠のコースは、豊川海軍工廠の慰霊碑、名大太陽地獄遺跡、豊川海軍工廠環境研究所、陸自豊川駐屯地、豊川陸軍墓地、豊川空襲慰霊碑などをめぐり、愛知大学記念館を見学した。
愛知大学では、愛知大学・東亜同文書院大学記念センター客員研究員の越知孝氏が案内し、各種資料などについて説明した。立花氏ら一行は、展示物を丹念に見て回るなど、2時間、滞在した。
越知氏は、「立花さんは興味深そうに資料を点検し、珍しいものが愛大にある」と語ったあと、「立花さんは、東亜同文書院時代の卒業論文テーマや、小岩井洋さん(元愛大学長が同文書院)上海に行っていた(愛大)憲法草案の鈴木俊蔵さんが愛大教授となっていたわけなどについて質問してきた」と話していた。





愛知大学東亜同文書院大学記念センター

27日、晴れの「お披露目の会」

2年間の整備終え公開

披露される愛知大学東亜同文書院大学記念センター



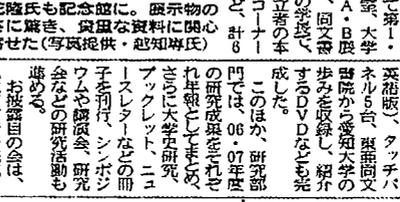
愛知大学東亜同文書院大学記念センター「お披露目の会」は、27日午後1時から豊橋市の同大学東亜同文書院大学記念センター(旧本館)を公開する。

披露される愛知大学東亜同文書院大学記念センター



記念センターは、文部科学省のオープンリサーチ・センター整備事業として、06年から9年をかけた建設で、07年度に完成した。

披露される愛知大学東亜同文書院大学記念センター



記念センターは、文部科学省のオープンリサーチ・センター整備事業として、06年から9年をかけた建設で、07年度に完成した。

「お披露目の会」は、27日午後1時から豊橋市の同大学東亜同文書院大学記念センター(旧本館)を公開する。

披露される愛知大学東亜同文書院大学記念センター



披露される愛知大学東亜同文書院大学記念センター

「お披露目の会」は、27日午後1時から豊橋市の同大学東亜同文書院大学記念センター(旧本館)を公開する。



披露される愛知大学東亜同文書院大学記念センター

2008年(平成20年)9月26日 金曜日

東亜同文書院

歩み「子孫」愛知大に

愛知大学東亜同文書院は、1900年(明治33年)に設立された。その歩みを振り返る。愛知大が、同文書院の歴史を、愛知大の歴史として、愛知大の発展に貢献する。愛知大の歴史を、愛知大の発展に貢献する。愛知大の歴史を、愛知大の発展に貢献する。

あす披露の会「大旅行」孫文…整理

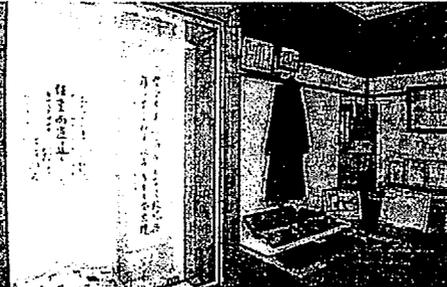
愛知大学東亜同文書院は、1900年(明治33年)に設立された。その歩みを振り返る。愛知大が、同文書院の歴史を、愛知大の歴史として、愛知大の発展に貢献する。愛知大の歴史を、愛知大の発展に貢献する。愛知大の歴史を、愛知大の発展に貢献する。



東亜同文書院大学記念センター 諸施設一新

ルーツひもどく充実の内容

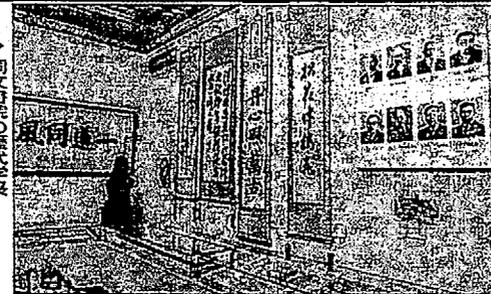
▷1周年、10周年の勉強と学生の発
達



愛知大学東亜同文書院大学記念センターの諸施設が一新され、27日午後1時から豊橋市町畑町の同大学豊橋校舎(大学記念館(旧本館)で、来賓、関係者が出席し「お披露目会」が開かれた。

同記念センターは、文部科学省のオンライン・リサーチ・センター整備事業として、06年から2カ年をかけて進められ、07年度に完了した。施設では、同文書院や大学史関係の展示室を整備したほか、本館第一記念コーナーを設けるなど充実させた。また、関係者用に音読ガイド機4台(日本語、中国語、英語)やタッチパネル5台を設備した。

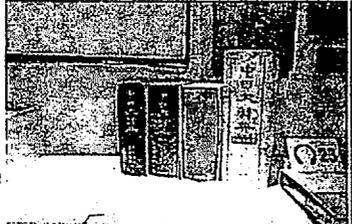
愛知大学できょう盛大に「お披露目会」



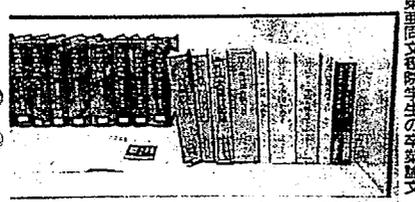
▷同文書院の現代学長

東亜同文書院から愛知大学の歩みを収録し、紹介するDVDなども完成した。お披露目会では、記念センター関係者に続いて、DVD制作、設備担当の山本(本館第一)氏の挨拶が「娘からみた学長・本館第一」愛知大学」をテーマに開催。続いて、大学記念館(旧本館)築100年を記念し、木金敏蔵氏が「100年前に全館記念館を造った祖父たち」と題して語る。このあと、交歓会が開かれた。

佐藤元彦愛知大学学長は「これを機に、本学のルーツや歴史を多くの人に理解して」と話していた。



▷戦後法曹界の巨匠・人



▷東亜同文書院学生の卒業論文



東亜同文書院記念センター(旧本館)



4 貴重な資料に記入する評論家・立花隆氏

<p>内科・消化器科 つつしが丘 豊橋市佐藤1丁目14</p>	 <p>小児科 クリニック TEL<0532>66-2103</p>	<p>有限会社 OMIC 豊橋市小松町13 TEL<0532>46-0881</p>
---	---	---

展示物充実 一般公開へ



東亜同文書院大学記念センター 愛大が披露目の会



「友の会」もスタート

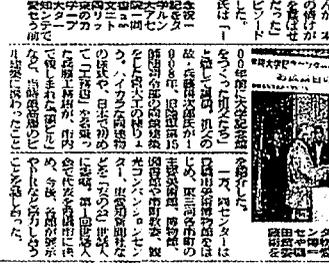
愛知同文書院大学記念センターの一般公開が、28日(日)からスタートした。この日は、愛大の前身である愛知同文書院の創立100周年を記念して、愛大が披露目の会を開催した。この日は、愛大の前身である愛知同文書院の創立100周年を記念して、愛大が披露目の会を開催した。

本館第一学級の特別展示室

展示室には、愛知同文書院の歴史を伝える貴重な資料が展示されている。また、愛大の前身である愛知同文書院の創立100周年を記念して、愛大が披露目の会を開催した。

愛知同文書院大学記念センター

新展示室 披露目



「友の会」もスタート

愛知同文書院大学記念センターの一般公開が、28日(日)からスタートした。この日は、愛大の前身である愛知同文書院の創立100周年を記念して、愛大が披露目の会を開催した。

100年超す歴史の貴重な資料

愛知大学東亜同文書院大学記念センター

展示室リニューアル

あす披露

音声ガイド機やタッチパネル
理解を深める工夫

ATPSに愛知同文書院大学記念センターリニューアルオープン披露日の会

- 11:00-12:00 受付開始
- 12:00-13:00 披露目会
- 13:00-14:00 一般公開
- 14:00-15:00 閉館

愛知同文書院大学記念センターは、愛知同文書院の創立100周年を記念して、愛大が披露目の会を開催した。

愛大の原点を訪ねて

「上海の旅」越知氏が講演

愛知大学東亜同文書院として講演した。

院大学記念センター「同センターの歴史」(藤田史学センター)「ニューラル」お披露目(先月27日)に先研究館で「研究会」を 開催、同月4・6日(開会、同センター)客員 中国・上海を訪れ、東研究員・越知専氏が 東亜同文書院に所属する「上海3日間の旅」東 地域で上海交通大学を 東亜同文書院・愛知大学 視察した越知氏。 中国の父と語られる



愛知大学のルーツを訪ねた旅について語る越知氏(同大学研究館)

海(山)山書居生(の)銅像なども目の当たりにして、「愛知大学と東亜同文書院とのつながりを実感しました」と、現地で撮影した写真の数々を紹介しながら

ら説明。上海交通大学では、図書館(記念博物館)の歴史パネルに、「1938年4月17日、東亜同文書院が我が学校の校舎を占拠し、なご中国語で得られた解放があり、一時不幸な時代の証言に心を痛めた」とを語った。また、「現地では、リュックサックを背負わず、胸に抱えている人が多い。スリ警戒のためだ」と、同国の近況も紹介したほか、同文書院大の最後の学長で愛大の創設者・故・本間啓一を偲ぶ。

(杉浦文夫)

日中友好の礎を築きかけた

記念センターのリニューアル

越知 専

「上海を視察して、東亜同文書院を語る」となれば、とある。愛知大学東亜同文書院の前身である東亜同文書院に「上海」の歴史を継承する大舞台として、越知氏らによって、東亜同文書院の歴史を語り継いでいく。越知氏は、東亜同文書院の歴史を語り継いでいく。越知氏は、東亜同文書院の歴史を語り継いでいく。



上海交通大学の前に立つ越知氏(同大学研究館)

上海交通大学の前に立つ越知氏(同大学研究館)が、東亜同文書院の歴史を語り継いでいく。越知氏は、東亜同文書院の歴史を語り継いでいく。



上海交通大学の歴史を語り継いでいく。越知氏は、東亜同文書院の歴史を語り継いでいく。

文化発信 開かれた施設

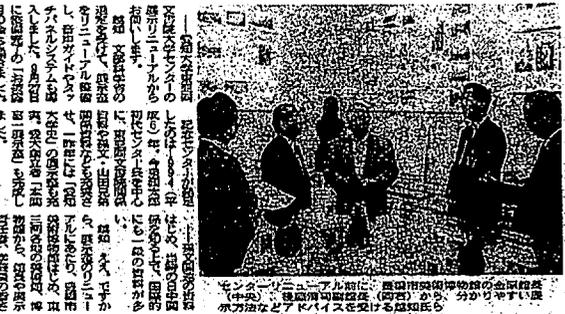
愛知大学東田岡文書院大学記念センター



センターがある、大学記念会館(日本館) 豊橋市新町町で



訪問した人々に愛知大学東田岡文書院大学記念センターの魅力を伝える。豊橋市新町町にある大学記念会館で



越知専・客員研究員で開く

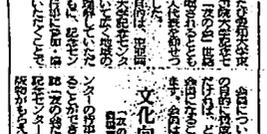
センターでコミュニティ活動に。豊橋市東田岡文書院の金沢館(右側)で。豊橋市東田岡文書院の金沢館(右側)で開く。水戸藩などアライアンスを受け、豊橋市東田岡文書院の金沢館(右側)で開く。



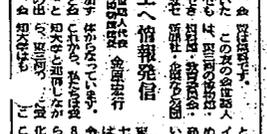
愛知大学東田岡文書院大学記念センター



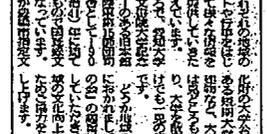
愛知大学東田岡文書院大学記念センター



愛知大学東田岡文書院大学記念センター



愛知大学東田岡文書院大学記念センター



愛知大学東田岡文書院大学記念センター



愛知大学東田岡文書院大学記念センター



愛知大学東田岡文書院大学記念センター

★愛知大学東田岡文書院大学記念センター

- ①豊橋市南郷博物館
- ②豊橋市二川道本陣資料館
- ③小坂井町御土資料館
- ④豊橋市自然史博物館
- ⑤豊橋市の松並木資料館
- ⑥豊橋市坂ヶ丘ミュージアム
- ⑦豊橋市中央図書館
- ⑧豊橋市博物館
- ⑨豊橋市博物館
- ⑩豊橋市歴史民俗資料館

豊橋市 小坂井町

- ⑪豊橋市御土資料館
- ⑫花井会館
- ⑬豊橋市歴史民俗資料館
- ⑭豊橋市コンベンション協会
- ⑮豊橋市美術館
- ⑯豊橋市立中央図書館
- ⑰豊橋市立中央図書館
- ⑱豊橋市立中央図書館

◎愛知大学東田岡文書院大学記念センター

美術館や博物館と連携 地域とのつながり強化

24施設・団体が「友の会」世話人

愛知大学東田岡文書院大学記念センター(以下「センター」)が、豊橋市東田岡文書院の金沢館(以下「金沢館」)で、10月25日(土)に「友の会」世話人会を開催した。この会は、センターと連携する24の施設・団体の世話人会として、今年度初めて開催された。世話人会は、センターと連携する24の施設・団体の世話人会として、今年度初めて開催された。世話人会は、センターと連携する24の施設・団体の世話人会として、今年度初めて開催された。



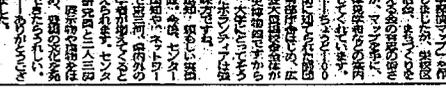
友の会世話人会の様子



友の会世話人会の様子



友の会世話人会の様子



友の会世話人会の様子



友の会世話人会の様子



友の会世話人会の様子



友の会世話人会の様子



友の会世話人会の様子

日中友好の原点がここに

戦前の上海に存在した日本の高等教育機関
「東亜同文書院大学」資料展示会

23—25日 福岡市のアクロス福岡

愛知大学に受け継がれた国際人養成の歴史

東亜同文書院大学は、戦前上海に存在した日本の高等教育機関として、その歴史を刻み、愛知大学に受け継がれた国際人養成の歴史を、資料展示会を通じて後世に伝える。

国際都市・上海から築立ち

日本、アジアの歩みを支えた若き日本人たち

東亜同文書院大学は、戦前上海に存在した日本の高等教育機関として、その歴史を刻み、愛知大学に受け継がれた国際人養成の歴史を、資料展示会を通じて後世に伝える。

立花町出身の大内暢三

動乱の中「書」を身に着けた

立花町出身の大内暢三は、戦前上海に存在した日本の高等教育機関として、その歴史を刻み、愛知大学に受け継がれた国際人養成の歴史を、資料展示会を通じて後世に伝える。



立花町出身の大内暢三(右)と大内暢三

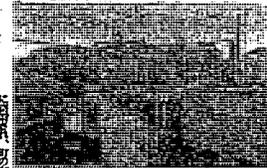
山田俊久氏に聞く

実績で存在意義を示した書院生

山田俊久氏は、戦前上海に存在した日本の高等教育機関として、その歴史を刻み、愛知大学に受け継がれた国際人養成の歴史を、資料展示会を通じて後世に伝える。

大内暢三の書など50点余り

23日に開演する愛知大学「東亜同文書院大学の資料展示会」は、戦前上海に存在した日本の高等教育機関として、その歴史を刻み、愛知大学に受け継がれた国際人養成の歴史を、資料展示会を通じて後世に伝える。



東亜同文書院をスケッチした大内暢三

東亜同文書院をスケッチした大内暢三の書など50点余りを展示する。

中国全土を踏破した 地域調査「大旅行」

大内暢三氏は、戦前上海に存在した日本の高等教育機関として、その歴史を刻み、愛知大学に受け継がれた国際人養成の歴史を、資料展示会を通じて後世に伝える。

東亜同文書院から愛知大学へ。

東亜同文書院をその源流として、1946年、中部地区唯一の法文系大学として誕生した愛知大学は、書院の歴史と伝統を受け継ぎ、「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」をめざし教育・研究に取り組んでいます。



愛知大学

AICHI UNIVERSITY

大学院 法科大学院 会計大学院 法学部 経営学部 現代中国学部
 経済学部 文学部 国際コミュニケーション学部 短期大学部
 本部：豊橋キャンパス 豊橋東区豊橋市町畑町1-1 TEL.(0532)47-4111(代表)

<http://www.aichi-u.ac.jp/>

立花町出身・大内暢三の掛け軸 「遠縁」が愛知大に寄贈

福岡市の「東亜同文書院大の記録に」

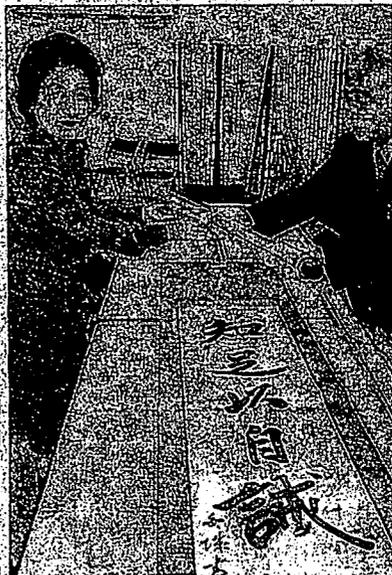
愛知大(愛知県豊橋市)の前身、東亜同文書院大の初代学長で、国会議員も務めた大内暢三(立花町出身)直筆の掛け軸を、福岡市中央区の会社

役員手嶋明子(福岡市)が二十四日、愛知大に寄贈した。手嶋さんは大内の遠縁で、長年、掛け軸を所蔵していたが、「世に出した方がいい」と高贈を思い立ったという。

愛知大によると、東亜同文書院大は戦前、上海に創設された日本の高等教育機関。終戦で閉校と

なりましたが、関係者が愛知大を設立した。大内暢三は東亜同文書院大の初代学長を務めたほか、衆院議員だった際には日中韓の友好や普通選挙の成立にも力を尽くした。一九四四年に亡くなった。

この日、手嶋さんは福岡市にある人も少ない。この掛け軸が記録に役立てばうれしいと話した。



愛知大の藤田佳久教授に大内暢三の掛け軸を手渡す手嶋明子さん(左)

両市のアクロス福岡で開催中の東亜同文書院大を資料で紹介する展示会を訪れ、愛知大関係者に掛け軸一点を渡した。「書は貴重な資料になる。大切にしたい」と愛知大文学部の藤田佳久教授。手嶋さんは「現在は東亜同文書院大を知っている人も少ない。



愛知大に寄贈され、東亜同文書院大の資料で初公開された大内暢三の掛け軸

「東亜同文書院大展 大内暢三の掛け軸公開」福岡市 保慶の高口家寄贈
福岡市のアクロス福岡で開催されていた「東亜同文書院大」資料展で、主催する愛知大(愛知県豊橋市)は二十五日、前日に寄贈された東亜同文書院大初代学長・大内暢三(二八七四―一九四四、立花町出身)直筆の掛け軸を初公開した。掛け軸は、大内本人から、遠縁に当たる福岡市中央区の高口家に贈られ、保管されていた。会社役員で高口家の先代の長女である手嶋明子(福岡市)が、東亜同文書院大に関する巡回展が同市であることを知り寄贈した。二十五日に資料展は終了したが、愛知大は大変貴重な資料の一つとしており、今後、神戸市や名古屋市中区で開催予定の巡回展でも展示していく予定だ。



愛知大学東亜同文書院記念センター客員研究員 越知専氏

▽ 上海交通大学 ▽

感無量、見るもの聞くものすべて吸収



愛知大学東亜同文書院記念センター客員研究員、越知専氏が、上海で訪れた上海交通大学の印象を語ります。上海交通大学は、上海の中心部にあり、その歴史は1909年に遡ります。この大学は、中国の近代化と発展に大きく貢献してきました。越知氏は、この大学で多くの貴重な体験をし、その文化と教育に感銘を受けました。



戦前、東亜同文書院の校舎があった。上海交通大学の建つ立派な図書館は現在、大学博物館に

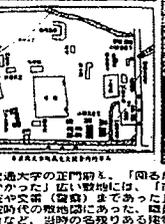
館内には、交通大学は中国でも一流という自負と、国際機関が全面に現れた展示。右遊覧艇を乗る例、ジェット機、有人飛行のロケット機まであった。



「上海の発展の歴史が、まさに中国の歴史そのものではないかと感じました。上海は、中国の近代化の中心地であり、多くの重要な出来事がここで行われました。上海交通大学は、その歴史を大切に守り、現代の教育と研究に活かしています。」



「休館日だったのが、『日本から来た』と伝えられた。『それでは』と聞いてくれた。対面は良かった。展示の記念品の贈り物も、よく見た。少なかったのが印象的。」「(無題)というのがある(越知氏)



上海交通大学の正門前も、「回るだけで3時間かかった」広い敷地には、「所産も残る。戦前中交(東亜)まであった」。戦前中交(東亜)の時代の建物も残っている。当時の名残がある建物も、上海の歴史を語る上で欠かせない。

中国の父・植民地の歴史も数多く展示

▽ 上海市内の様子 ▽



上海市内の様子。上海は、中国の経済と文化の中心地であり、多くの重要な出来事がここで行われました。上海交通大学は、その歴史を大切に守り、現代の教育と研究に活かしています。



内山完造の銅像

倉橋健二

愛知大学2代・3代学長、名誉学長
上海東亜同文書院大学高級学長
島高技術所副所長
長女 **殿岡晟子**
本間喜一氏

安全・快適な輸送サービスの豊橋鉄道グループ
ビジネストラベラーの快適空間
ワーストクラスの宿泊単価 利便性抜群のホテル
豊橋駅前 豊橋観光ホテル ☎ 豊鉄ターミナルホテル ☎ 豊橋駅前 豊橋観光ホテル ☎ 豊鉄ターミナルホテル ☎

お客さまから愛され、信頼される金融機関をめざします
岡崎信用金庫
http://www.okashin.co.jp/

好評の「愛知大学創成期の群像」

急ぎよ1万部増刷

東亜同文書院
記念センター

愛知大学東亜同文書院記念センター(藤田佳久センター)長は、好評なブックレット「愛知大学創成期の群像」(A5判、55頁)1万部増刷にふみきった。

写真研究会が自費出版した「愛知大学創成期からの思い出写真文集」(A4判、112頁)限定1000部を発行し、500部を愛知大学へ寄贈。代金は愛知大学国際交流基金とした。

増刷する「愛知大学創成期の群像」(右下)と、そのベースになった本(左下)



増刷する「愛知大学創成期の群像」(右下)と、そのベースになった本(左下)

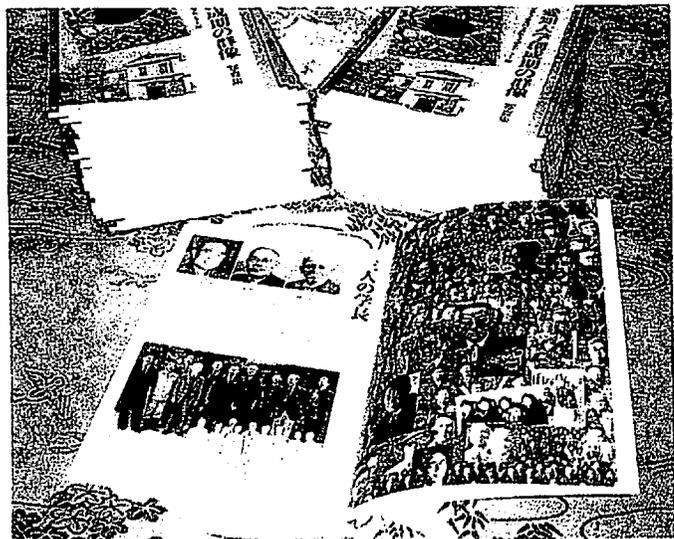
増刷する「愛知大学創成期の群像」(右下)と、そのベースになった本(左下)

このブックレットの前身は、平成9年3月に越知専氏(昭)と。限定1000部を発行し、500部を愛知大学へ寄贈。代金は愛知大学国際交流基金とした。それをもとに、愛知大学創立60周年記念事業としての写真集パネル展「愛知大学創成期の群像」として公開。平成18年11月から、愛知大学豊橋キャンパス、車道キャンパス、名古屋キャンパスの3カ所、43校のパネルによって展示されて

魅力ある写真集として好評であった。すでに、平成19年以来増刷を重ねて、1万8000部が出版されているが、在庫少なくなり、新入学生や、愛大記念センター友の会世話人会に配布するため、急ぎよ1万部の増刷となった。

「愛知大学創成期の群像」を増刷

愛知大学東亜同文書院記念センターは、好評なブックレット「愛知大学創成期の群像」(A5判、55頁)1万部増刷にふみきった。

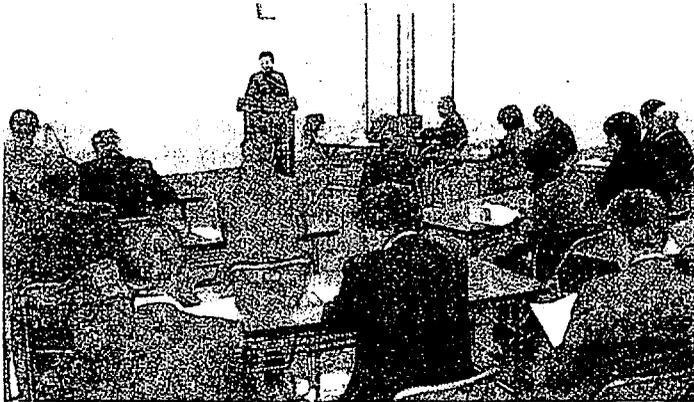


魅力的な展示体制づくりへ

愛知大学東亜同文書院
記念センター

豊橋美博など3館で現地研修会

関係者らノウハウ学ぶ



豊橋市の豊橋市美術館で、牧野氏の説明を聞く、研修会参加者

愛知大学東亜同文書院記念センター(藤田佳久センター長)は1日、地域校区の世話人会、大学関係者ら25人が、豊橋市美術館、豊川市桜ヶ丘ミュージアム、田原市博物館で「現地研修会」を行い、効果ある展示や説明の方法、広報や来客のノウハウについて学んだ。

同センターが文部科学省のオープン・リサーチ・センターの選定を受けた展示室のリニューアル整備が昨年完了し、4年間のオープン・リサーチ事業も2010年度で終了する。

積み重ねた成果を、

広く公開するにあたり、体制づくりをこの日、ネットワークを結んだ各館をバスで回った。

同館の収蔵資料は、美術資料が1148点(うち寄付589点)、歴史資料が3万8711点(うち寄付8218点、寄託2万9277点)、個人コレクション1万6447点。

牧野氏は「収蔵品は市民との共有財産」を強調。藤田センター長の「指定管理者制度についての考えは？」の質問に、牧野氏は「巡回展では経費負担が減るが、一般の展覧会では、有料の場合でも経費が倍以上かかるな

ど、営利目的となじまない。寄付者からも、市だから寄付するが、指定管理者だったら寄付しないという声も出ている」と答えた。また、広報の手法について、ポスター・チラシ1300カ所マブ広報紙・ホームページ・郵便改札口の告知看板・FMラジオ・マブリンティ(新聞・テレビ)・JR・名鉄の機関紙やチラシを挙げ、「割引券を付けたら効果的だった」と語った。この後、一行は同館2階全展示室で開催中の収蔵品展「物語る絵画」などを見学。収蔵品公開も、テーマを統一することで新鮮な展示になることを学んだ。

同研修会世話役の越知輝・同センター客員研究員は「多くのことを学べた」と感想を語ったほか、この日訪れた3施設に、「愛知大学創成期の群像」ブックレットを各100冊、無料配布用に寄贈した。(杉浦文夫)





報告する牧野哲也さん



「愛知大学創成期の群像」を主題とする藤田佳久センター展(右)



報告する鈴木利昭さん

「現場で地域を学ぼう」

豊橋、豊川、田原の美術館・博物館巡り

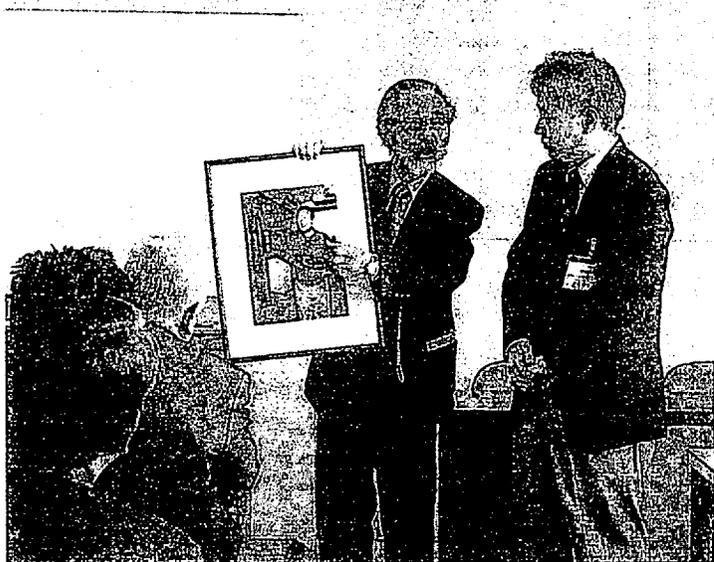
愛知大学東亜同文書院大学記念センター

愛知大学東亜同文書院大学記念センター。この間の研究成果「藤田佳久センター」展は、同記念センターの情報公開と取組文書院をめぐり、総合研究を推進するため、2006年度から2010年度まで5年計画を行う。

豊橋市美術館

では牧野哲也事務員「学創成期の群像」が周辺を巡り、豊橋、豊川、田原の美術館・博物館を巡り、同センターの研究成果「藤田佳久センター」展は、同センターの情報公開と取組文書院をめぐり、総合研究を推進するため、2006年度から2010年度まで5年計画を行う。

豊橋市美術館



東松照明の写真を審読する越中さん



報告する須原勝以さん

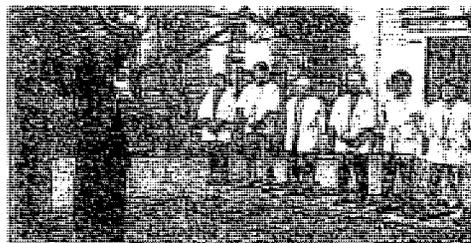


現地の特徴を説明する藤田佳久センター員

AICHI UNIVERSITY
愛知大学東亜同文書院大学記念センター
 Open Research Center for ToaDobunshoin University of AICHI UNIVERSITY 愛知大学東亜同文書院大学記念センター
 〒441-8522 愛知県豊橋市町田町1-1 Tel.0532-47-4139 Fax.0532-47-4196 URL http://www.aichi-u.ac.jp/
 1-1 Machihata, Toyohashi, Aichi 441-8522, Japan

安心・安全・快適な転送サービスの豊橋鉄道グループ
 豊鉄観光…ハイグレードな旅を演出します
 私の街からあなたの街から、いい日旅立ち
 ハニット・アゼリアツアー
 お申し込み・お問い合わせ
豊鉄 旅行センター
 0532-54-5691

愛大の東亜同文書院大センター



東亜同文書院大センターの職員と研究者が一堂に集まり、研究活動の推進について話し合っている。

前身からの歴史アピール

前身からの歴史アピール
「研究活動にはよく知られている東亜同文書院大センターは、愛知大の名前も広く知ってほしい」と意気込んだ。応援団がメンバーにエールを送った。

センター長ら8人米へ

愛知大東亜同文書院大センター(愛知市)が十六日から十九日まで、シカゴで開催される「アジア学会年次大会」に参加する。愛知大の前身で一九四五(昭和二十)年まで中国・上海にあった東亜同文書院大時代の歴史を世界の研究者にアピールする。(安田カ)

アジア学会年次大会に参加

アジア学会には愛知大の研究者約七人が所属し、毎年、北米の都市を中心とする年次大会を開いている。
愛知大のメンバーは八人で、藤田佳久・東亜同文書院大東亜センター長はシカゴ大で、同大の学生による中国語を巡った卒業旅行などを題材に講演する。



米国の愛知大センター長らにエールを送る愛知大の職員と研究者。

シカゴで東亜同文書院紹介

成功祈り愛大で出張者「社行会」

米田シカゴ支部(上院議員リサーチ)から派遣の「アジア学会年次大会」の出張者(同)の八人。この派遣の成功を祈り、東亜同文書院大(愛知市)で「シカゴ支部」のメンバーらと「アジア学会」の歴史を語り、成功を祈る。出張者らは、愛知大の歴史を語り、成功を祈る。出張者らは、愛知大の歴史を語り、成功を祈る。

東亜同文書院大の歴史を語り、成功を祈る。出張者らは、愛知大の歴史を語り、成功を祈る。出張者らは、愛知大の歴史を語り、成功を祈る。

愛知大の歴史を語り、成功を祈る。出張者らは、愛知大の歴史を語り、成功を祈る。出張者らは、愛知大の歴史を語り、成功を祈る。

3月15日(日) 東日新聞

26日からシカゴで展示会

知名度アップめざす

愛知大東亜同文書院大センターは、26日から30日まで、シカゴで開催される「アジア学会年次大会」に参加する。この派遣の成功を祈り、東亜同文書院大(愛知市)で「シカゴ支部」のメンバーらと「アジア学会」の歴史を語り、成功を祈る。出張者らは、愛知大の歴史を語り、成功を祈る。出張者らは、愛知大の歴史を語り、成功を祈る。

東日新聞の記事内容に関する補足情報。

